



今年度で4回目を迎える「ウッドデザイン賞」。12月6日、「エコプロ2018」にて表彰式が行われました！

「ウッドデザイン賞」は、木材や木製品を利用する消費者が木の良さや価値を再発見できる製品や取組を評価・表彰し、森林・林業の活性化や木のある豊かな暮らしの実現を図る取組として、2015年度から始まりました。「木」に関するあらゆるモノ・コトを対象に、①暮らしの質を高めているもの(ライフスタイルデザイン部門)、②人の心を豊かにし、身体を健やかにしているもの(ハートフルデザイン部門)、③地域や社会を活性化しているもの(ソーシャルデザイン部門)の3つの部門を設けています。

第4回目となる今年度は、全国各地から393点の応募があり、書類による1次審査、プロジェクトデザイナーの赤池学氏や、建築家の隈研吾氏などの審査委員による2次審査を経て、189点の作品が「ウッドデザイン賞」を受賞しました。

さらに、この中から、最優秀賞(農林水産大臣賞)1点、優秀賞(林野庁長官賞)各部門3点ずつ、奨励賞(審査委員長賞)各部門5点ずつ、さらに今年度から新しく創設された特別賞(木のおもてなし賞)3点の、計28点が上位賞として選ばれ、これらの上位賞については、12月6日に東京ビッグサイトにて開催された「エコプロ2018」にて表彰式が行われました。

今年度の最優秀賞は、建築・空間分野の「江東区立有明西学園」(株竹中工務店ほか)です。

区内初となる小中一貫9年制の公立学校で、防耐火規制の厳しい都市部において、大規模な学校施設の木造化・木質化を実現させており、都市部におけるこれからの木材利用のモデルを示しています。また、地場産業である木材を活かしたシンボル性の高い木の学校をつくりたいという江東区の想いを実現するとともに、子供達の生活の場である普通教室及び移動・交流の場を中心に木造化・木質化を行うことで、木の温もりを活かした豊かな教育環境づくりに取り組んでいます。木の文化の発信と学習環境の向上などを見事に融合させた質の高い施設づくりに成功している点が高く評価されました。

このほかの受賞作品では、針葉樹の表層部を高密度化し、硬さや強度を向上させた無垢の新素材の開発、木材由来である改質リグニンを活用した異業種協業の取組など、木の技術の広がりにより、従来の木材利用にとどまらない、新たな価値や木材利用の可能性の創出に繋がるような取組が多くみられました。

今後も、「ウッドデザイン賞」に幅広い業種の方々にご参画いただき、また業種を超え連携いただくことで、これまでにない木の特性や効能を生かしたデザインや、技術研究・開発等が生み出され、それがモデルケースとなり、全国で木材利用が更なる広がりを見せていくことを期待しています。

今後、以下の展示会において、ウッドデザイン賞受賞作品の展示、審査委員や受賞者が作品について語るセミナーを行いますので、ぜひご来場ください。

●「WOODコレクション モクコレ 2019」

日時:1月29日(火)～30日(水) 場所:東京ビッグサイト 東7・8ホール

内容:受賞作品の展示

URL:<http://www.mokucolle.com/>



●「木と住まいの大博覧会」

日時:2月1日(金)～2日(土) 場所:東京ビッグサイト 西1・2ホール

内容:受賞作品の展示、セミナー(2月2日(土))

URL:<http://www.sumai-tokyo.jp/>



ウッドデザイン賞の目指すもの



(お問い合わせ先)

ウッドデザイン賞運営事務局

メール:info2018@wooddesign.jp

URL:<https://www.wooddesign.jp/>

Facebook:<https://www.facebook.com/wooddesignaward/>



※今年度、また過去のウッドデザイン賞受賞作品につきましては、上記HPにおきまして掲載しております。また、各種情報はウッドデザイン賞運営事務局のFacebookにおいても随時配信しておりますので、ぜひご覧下さい。

ウッドデザイン賞2018受賞作品

最優秀賞(農林水産大臣賞)

● 江東区立有明西学園(東京都) 〈ライフスタイルデザイン部門 建築・空間分野〉

(株)竹中工務店、江東区、(株)久米設計

区内初の小中一貫9年制の公立学校。都市部では実現が困難であった大規模な学校施設の木造化・木質化を行うとともに、豊かな教育環境を実現。



優秀賞(林野庁長官賞)

● 改質リグニンを利用した3Dプリンター用基材の開発と造形試作への展開

〈ライフスタイルデザイン部門 技術・研究分野〉

ネオマテリア(株)、京都工芸繊維大学(京都府)

木材由来の新素材である改質リグニンと生分解性材料を組み合わせた環境調和型の3Dプリンター用基材の開発。次世代のものづくりの技術として注目される3Dプリンタと木の素材活用を組み合わせ「異業種協業」の取組。



● Odai

〈ハートフルデザイン部門 木製品分野〉

宮川森林組合(三重県)

地域の広葉樹の食品やアロマ雑貨等への活用を提案する商品群。森林組合が新たなビジネスモデルを提案するとともに、デザインを通じて地域材の良さを広めようとする先進的な取組。



● デジタルファブリケーションによる自律分散型生産ネットワーク

〈ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野〉

VUILD(株)(神奈川県)

デジタル加工機Shotbotを全国に普及し、デジタル技術を扱える人材を育成。共有して加工販売できる設計雛形を構築し、ネットワーク型のビジネスモデルを実現している。



〈エコプロ2018〉



受賞作品を一挙に展示。多くの皆様にご来場いただきました



新たな技術・システムで広げる地域材のバリューチェーンをテーマにしたセミナーを実施しました